

令和3年度 第1回逗子市共育のまち推進懇話会 会議概要

- 日 時 2021年（令和3年）7月8日（木） 午後1時～3時40分
- 会 場 市役所5階 第4会議室
- 出 席 懇話会メンバー 松岡安奈、草柳ゆきゑ、石井昭子、石渡眞澄、出居尚樹、
長坂寿久（敬称略）
アドバイザー 池谷美衣子（敬称略）
- 欠 席 懇話会メンバー 矢部基子（敬称略）
- 事務局 市民協働部：石井聡次長
市民協働課：中川公嗣係長、平林祐子主事補
- 傍聴者 なし
- 配布資料
次第
基幹計画進行管理表
資料1 逗子市共育のまち推進懇話会メンバー名簿
資料2～4 総合計画・基幹計画・個別計画の進行管理について
【参考資料】 前年度基幹計画進行管理表

○開会

メンバー自己紹介

○議題

【共に学び、共に育つ、共育のまち推進プランの評価について】

1. 生涯学習活動推進プラン

メンバー報告：新型コロナの影響で講座開催などに苦慮しているという印象。その中でもオンラインやオンデマンドなど工夫して開催を実施している点は評価したい。評価としてはBが妥当と考える。

メンバー：コロナで開催を中止するのはやむを得ないことだが、委託型の講座に関して一部または全部中止になった際の収支の評価が見えにくい。また、オンラインなどに対応を変えて開催するなど努力している場合、どう評価したらいいのか方向を定める必要がある。

石井聡次長：事業費の費用対効果を評価することは、この書式では内訳が見えず難しい。事業費は、成果に対するボリュームとして参考にさせていただくものである。

メンバー：昨年、各懇話会で所管課がまとめた経緯がわかる議事録を添付していただけるようお願いしたが、添付されていない。各委員さんの大事な意見を拾い上げるため

には議事録が必要と考える。また、共有ネットワーク構築事業で、実施結果にあそびのひろばを隔月と書いているが、実際は毎月である。共有ネットワークの構築事業はどこどこをつなげているのか明確ではなく、評価できない。

石井聡次長：共有ネットワーク構築事業は主にポータルサイトとして情報を集約して、市民にお知らせしていくものであり、インターネットのみでなく生涯学習のガイドブック、紙媒体も含まれている。もう一つは交流センターの窓口が、講師をしたい人と習いたい人をコーディネートする役割を担っている。今までは生涯学習として単に全世代に向けたものだったのが、交流センターは若年層の利用が少ないということもあって、あそびの広場など親子の世代に交流センターを知ってもらうために企画して、その人たちが自立して、自分たちで講座を開いたりできるような取り組みも行っている。合わせて、共有フェスティバルというイベントを開催して、子供向けの講座をやりたい方の活動のお披露目の場を提供している、という事業を展開している。

アドバイザー：この会議の前提の確認と事務局へのリクエストがある。この会で検討するのは、各プランの個別計画進行管理総括表が基本となる。個々の事業を全て理解しようとするのはこの会の中では現実的に難しいのが現状だと思う。基本的には個々のプランの懇話会の中で検討されたものがあがってきているので、個別計画進行管理総括表に限定しながら、共有全体としてどうなのかという議論をしていく場となっている。個々の事業にまで十分議論ができないという点は了承いただきたいというのが一点。もうひとつは、今回書面会議ということで、書面で出た意見が全て反映されているという認識でいいのか、懇話会の中で書面の確認がなされているのか事務局に確認したい。

石井聡次長：たくさんの意見をいただき、それを出来る限り集約しているので、極端でない限りはほぼ入っていると思ってい。生涯学習活動推進プラン、逗子市文化振興基本計画、逗子市スポーツ推進計画は書面であったと確認している。逗子市学校教育総合プラン、逗子市社会教育推進プランは把握していない。

アドバイザー：このことをふまえて、個別計画進行管理総括表は基本的に懇話会の総意という理解のもと議論していきたいと考える。

メンバー：何をもって評価するのかツールが見当たらない中で、参加者のアンケート強化が必要と考える。また、多くの事業が中止に追い込まれている中、オンライン導入して新しい参加者を獲得した事例もある。全庁的に、コロナ禍に対してどのように工夫したのか、どう事業実施に取り組んだのか、実施主体も含めてまとめたものを情報共有できるといい。

2. 文化振興基本計画

メンバー報告：去年、一昨年と書面開催であった。アートフェスティバルについて、若い

人たちの芽が出ている一方で、企画が幅広い世代に受けいれられているか問題点が残る。文化祭について、数年前から文化スポーツ課の後援が外れ、衰退が懸念される。発足当初の計画のとおり、老若男女が楽しめるようアートフェスティバルと文化祭とが両輪で動いていくことが望ましい。ZAN という市民主体の団体が発足して企画運営をしているが、アートフェスティバルという公的な事業において、ZAN の予算の振り分けがどうなっているのか所管課に質問しているところである。施設の維持管理については市の財政状況によるところであるが、中長期において実施されていない。

メンバー：文化プラザホールの維持管理事業について。インターネットやWiFi の設備がなく、ホールとしての機能を満たしていないといえる。危機感を持って対応してほしい。アートフェスティバルについて、世代間のギャップが生じているという指摘があったが、若い人を巻き込んでいるのだから結構なことである。企画が幅広い世代に受けいれられているか問題というなら、前衛的なアートについて、懇話会でもっと活発な議論をするべきである。アウトリーチについては、コロナ禍においてオンライン化の工夫の議論がされず、取組がなかったことは残念である。

メンバー：ZAF はいい方向に育っており評価できる。

メンバー：文化振興推進事業の審議会・懇話会等の意見で、幅広い年齢層（10代～高齢者）の参加があり、と記載されている一方で、幅広い世代（特に高齢者）に受け入れられたか疑問であるとあり、意見に温度差がある。今後、世代間のギャップをどういう風に埋めていくか議論を交わせたらい。計画推進の改善に向けて、アートフェスティバルの取組とアウトリーチ活動推進事業をお互い補完できるような形も模索してほしい。

アドバイザー：施設の維持管理はC評価となり、その問題に足を引っ張られて全体評価もCとなっている。その他の文化活動については順調に進んでおり、評価の部分についてはやむを得ないが納得のいかないものとなった。

3. スポーツ推進計画

メンバー報告：書面審査であり、報告は帳票をみてほしい。スポーツの祭典に関しては、人が集まれないなか、工夫をこらした行事である。運動しない人に対して、運動してもらおう動機付けの取組など模索していきたい。

メンバー：社会福祉課でタニタと提携して逗子市内を歩く事業が立ち上がりそうだ。

メンバー：スポーツの祭典はオンライン導入を通じて参加者が増えている。コロナ禍で開発した新しい手法を今後も活用してほしい。

4. 学校教育総合プラン

メンバー報告：学校教育総合プランにおいても書面開催で、具体的にどんな議論がなされ

たのかという点に関して把握できていないところである。コロナ禍でオンライン化が進むなか、5年間の計画が1年間で全生徒にタブレットを整備するということになり、昨年度の2月に全小中学校に配備ができた。2月の整備がみえたところで、どんなことができるかということは今ある環境のなかで先生方が忙しいなか勉強していただけた。来年度もつなげていきたい。幼稚園、保育園、小学校の連携は今年度も難しい状況であるが、オンラインを活用するなど手法を模索していきたい。

メンバー：添付資料のなかで学校の自己評価シートがあり、大変評価できる。

メンバー：多様化している子どもたちのために、にじいろサポーターなどの取組を活用すると、教育現場の改革にもつながっていくと思う。

メンバー：地域の活動における学校への支援がどのくらい達成できたかはかる指標がほしい。

アドバイザー：事業自体はA評価だが、懇話会においてはB評価となっており厳しい評価となっている。

5. 社会教育推進プラン

メンバー報告：文書による評価を行った後、社会教育委員会を開催して結果を共有する形をとった。多くの講座が中止になったが、オンライン等を導入したことで参加者が増えたという事例もあった。オンラインコンテンツをたくさんつくったことは評価される結果となった。また、評価のツールとしてアンケートを多く利用している。

メンバー：昨年は文化財保護の交付金の内訳が資料として添付されていた。どういう形で活用したか報告書を出すよう指摘したところ、交付金の内訳自体添付されなくなったのは残念である。また、アンケートに関して、受講したことが生かせそうだとされている場合、実際どう生かせるかリサーチできるといいのではないか。

メンバー：アンケートで前向きな意見が多くみられ、評価できる。生涯学習でも行ってほしい。

アドバイザー：アンケートに関しては、次の計画の評価の指標にも関わってくることで、今年だけでなく、提言としてつなげていこうと思う。

全体意見

メンバー：共育のまち推進懇話会のメンバーは、個別プランの座長が参加するべき、もしくは座長と所管課が行っているまとめの会議のフィードバックを受けて参加することが望ましい。

メンバー：オンライン化に関することはどこも課題を抱えている。総合計画審議会など全庁ベースで方向性を出していく必要があるのではないか。

メンバー：個別の計画からでた意見を吸い上げて、具体的な提言を作成し、共有する必要があるのではないか。

事務局：今年度中に改めて懇話会を開催し、今後の懇話会の進め方についてどういう形で進めていくのが望ましい形なのかご意見を伺いながら整理していきたいと考えている。